

## 第6学年「図画工作」学習指導案

授業者 堀井 武彦

2月17日(土) アトリエ 10:00~10:40(話し合い11:00~11:45)

### 1 題材名 からだで感じて —ヤバッ!エモいんですけど— (造形遊び)

### 2 題材について

本学年の子どもたちは、造形活動において再現的、写実的な表現様式に憧れる傾向が顕著である。発達段階の想定以上に、活動一つ一つを緻密につくりこもうとするため設定時間を超えたり、イメージ通りの結果が得られず活動が停滞したりすることが少なくない。しかし、この傾向を中学校「美術」への橋渡しを促す潜在的な可能性と捉えれると前向きに受け止めることができる。そこで、小学校卒業を控え、心身共に中学校生活への身づくりをする今の時期に、図画工作の学びの要である「造形遊び」を通して「アートメタ認知」を体現する場として本題材を設定した。

ところで、「造形遊び」の「材料や場所、空間などの特徴に進んで働きかけ、思いのままに発想や構想を繰り返し、技能を働かせながらつくる」という基本理念は、子どもの素朴な問いから始める「てつがく創造活動」と親和性が高い。本題材は、紙ねんどの感触から思い付いたことを基に短時間で表現する最も原初的な「造形遊び」である。用具は粘土ペラを使い、主に手でちぎる、丸める、のばす、切る、つなげる等の行為が中心となる。再現的な表現は時間的に限界があるが、偶然の思い付きや、偶発的な造形現象のよさ、面白さ等の気づきを画像で記録してClassroomで共有することで造形表現の懐の広さを共感的に受けとめる態度を涵養するねらいがある。また、「造形遊び」の積年の課題である評価については、画像記録(複数が望ましい)や活動観察を基に統一的、直感的によみとり、「概ね達成している」の基準を授業者が形成的に設定する覚悟が必要となる。したがって、この覚悟は授業者に求められる「アートメタ認知」の涵養ということになる。

### 3 学習指導計画(1時間目/全1時間)

- 第1次 活動の概要を知る。…1分  
第2次 紙ねんどの感触から思い付いたことを基に働きかけ、つくったり、記録したりする。…25分  
第3次 記録を見合う活動を通して、自らを振り返ったり、他者との違いに気付いたりする。…14分

### 4 本時の学習について

#### (1) 本時のねらい

- 身体性を発揮して紙ねんどの感触から思い付いたことを基に働きかけ、思い付くままにつくったり、記録したりすることを楽しむ。

#### (2) 予想される本時の展開

主な学習活動と子どもの姿	留意点
1 紙ねんどの感触から思い付いたこと基に活動することを知る。 2 紙ねんどの特徴(可塑性)を生かした造形操作を様々に行う。 必要に応じて粘土ペラを効果的に使う	・触覚を中心とした身体性を発揮して紙ねんどの感触から働きかける。 ※用具は粘土ペラのみ使用する。 ※投げる行為は禁止。
【手で行う行為例】・丸める(球やひも)・並べる・つなぐ・重ねる、積む・かぶせる、包む・巻くなど 【ねんどペラで行う操作】・切る・あなをあける・ひっかく(えがく)・けずる・形を整えるなど	
3 「エモい!」と感じた活動は、その都度画像に記録する。 4 他者の多様な活動を共感的に受けとめたり、自分の活動をふりかえったりする。	・共同活動の可否は状況に応じて判断する。 ・可能な限り多様な活動例を共有する。

#### □授業後の話し合いで話題にしたいこと

- 身体性を発揮して紙ねんどの特徴から思い付いたことを基に発想や構想を繰り返して表現したり、機に応じて画像記録したりすることを楽しんでいただか。